

「アラビア語と日本語の音声」

2010.10.2 エルカウィーシュ・ハナーン

1. はじめに

第二言語習得に関する研究は、1990年代に入り急速に進められたが、その中でも母語の影響が最も顕著に現れる分野が音声・音韻の習得であると言われてきた。本日の発表では、エジプト人日本語学習者の日本語音声・音韻習得上の問題点と原因について概観する。そしてエジプト人日本語学習者の習得状況とよく似ている日本人学習者のアラビア語習得上の音声面の問題点について紹介する。

2. アラビア語の音声について

表1 アラビア語の子音と国際音声記号

		両唇音	唇歯音	歯間音	歯裏音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	咽頭音	声門音
閉鎖音	無声				ط ت t tʰ			ك ق k q				ء ؟
	有声	ب b			ض د d dʰ							
摩擦音	無声		ف f	ث θ		ص س s sʰ	ش ʃ	خ x			ح ħ	ه h
	有声			ظ ذ ð ðʰ		ز z		ع ɣ			ع ʕ	
破擦音	無声											
	有声						ج dʒ					
鼻音		م m			ن n							
ふるえ音						ر r						
側面接近音					ل l							
接近音		و w						ي j	و w			

母音： アラビア語には /a, i, u/ の3つの短母音音素と対応する長母音音素がある。

音節： アラビア語の音節の母型は「CV・CVV・CVC・CVVC・CVCC」である。「CV・CVV・CVC」の音節は自由に現われるが、「CVVC・CVCC」音節は語末にしか現われない。

アクセント： アラビア語のアクセントは強勢アクセントで弁別的なものではない。

3. エジプト人日本語学習者の問題点

表2 エジプト人日本語学習者の音声・音韻習得上の問題点と原因

	問題点	原因と考えられるアラビア語カイロ方言の特徴
聞き取りと発音	① 拗音と直音の識別	音節構造の母音削除規則。 例：規約（きやく）→客（きゃく）
	② パ行音とバ行音の識別	音素に/p/と/b/の識別がない。
	③ 「イとエ」、「ウとオ」の識別	短母音は音素レベルで「/a/、/i/、/u/」の3種類しかない。
	④ 長母音と短母音の識別	音節構造の母音短音化規則。
	⑤ 母音の前の撥音	音節は常に子音で始まり母音で始まることがない。そのため撥音と後続の母音とで1拍を形成しがち。例：単位（タンイ）→谷（タニ）
	⑥ 促音と非促音の識別	同じ子音の重複は存在するが、音節構造によって語中の1音節に子音重複が許されない。
	⑦ 「ツとス」、「チとシ」	音素レベルでは破擦音（ツ、チ）がない。
聞き取りのみ	① /m/と/n/	（今のところ原因が不明）
	② 語中・語末の/g/と/n/	カイロ方言軟口蓋音/g/は、東京方言の軟口蓋音/g/とは違って、語中で鼻濁音にならない。
発音のみ	/hi/	日本語の[ç]のような無声硬口蓋摩擦音が音素レベルで存在しない。

アラビア語のアクセントは強勢アクセントで、弁別機能を持たない。それゆえ学習者にとって日本語の高低ピッチ・アクセントが知覚しにくい。更に、学習者は、語頭以外の箇所から「低」から「高」にピッチを上げたり、本来アクセントがない箇所から「高」から「低」への「滝」をもってきたりするため、日本語母語話者に違和感を与えることもある。

エジプト人日本語学習者に対する効果的な教え方

発表者は1992年度から2004年度までカイロ大学で日本語の文法や読解などの授業の時間を利用して日本語の音声を教えていたが、音声練習時間が十分だったとはいえない。また、エジプト人日本語学習者向けの音声教材がなかったため、一般日本語学習者向けの国際交流基金のアラビア語版の『はつおん』(1978)と『声を出して練習しよう』(中川 1998)を使っていた。しかし、2005年度に日本語学科のカリキュラムが改善されて、学科では正式に音声教育のコースが始まった。1年生前期に1週4時間である。このコースでは前年に発行されたエジプト人日本語学習者向けの初めての音声教材を利用した。そして、1992年度から2004年度までの総合的な日本語授業に組み込んだ音声教育においても、2005年度の音声コースにおいても、日本語学科で音声を教えるときに心がけた基本姿勢は次のとおりである。

- 1) エジプト人学習者に初級段階から、自分の日本語音声の問題点を意識化させる。その理由は誤りが化石化する前に、問題を克服する必要があるからである。
- 2) 日本語の音韻体系・音声的特徴、エジプト人学習者の日本語音声の弱点を説明する。
具体的には、学習者の母語の音の中で日本語の音に近いが、学習者が意識していないアラビア語カイロ方言の音を意識させるという方法を取った。すなわち、母語であるアラビア語カイロ方言において使われている音声から、日本語音声に近いものを見つけ、学習者に示し、無意識に使っている音を意識化させるという方法である。この方法によって、学習者の母語能力を生かした効率のよい日本語音声学習が可能になり、学習者は日本語音声に親しみをもって学ぶことができようになった。
- 3) 日本語のCDなど生教材を聞かせたり、見せたりして、学習者のモチベーションを高め、限られた時間でできるだけ効果をあげる。
- 4) 一人の学習者に発音してもらい、そして残りの学習者の全員に発音された音声について正しいか、あるいは、間違いがどこにあるかを判断させる。そのステップに含まれている目的は次の通りである。
 - A) 教師のみに頼らないで、学習者に判断力をつけさせる。
 - B) 学習者の日本語音の聞き取り能力を上げる。
 - C) 学習者に日本語音についての興味を持たせる。
 - D) 各学習者は発音する側及び判断する側になるので、間違えることを恥じる気持ちをなくす。
 - F) 学習者の間に日本語音練習の競争の気持ちを広げる。

2005年度の新音声コースで使用した教材の内容

2005年度の新音声コースで『エジプト人のための日本語音声』(Hanan 2004)を使用した。これはアラビア語版と日本語版とに分かれ、4枚のCDが付いている。CDには各課の練習と13曲の童謡が含まれている。童謡は、学習者に日本の文化に触れる機会を与える、

歌を通して日本語の音に早く慣れさせる、単調になりがちな音声練習に変化をつけ、雰囲気を変えて楽しく学習できるようにという配慮から加えた。

教材の組み立ては「導入」と「基本練習」と「アクセント」の3つのセクションに分かれている。導入のセクションでは音声の基礎知識と日本語の音声及び拍について述べている。基本練習のセクションは次のような構成からなっている。

- 1) 単音について最も一般的な知識を与え説明してから、エジプト人学習者の日本語音声の誤りの傾向と、それについての注意点が示してある。
- 2) 練習例のところでは、エジプト人日本語学習者に習得しやすい音声環境を含む例文から始める。また、ミニマル・ペアの例文も示してある。練習例文は、基礎練習、単語レベル練習、文レベル練習、会話レベル練習の四つに分かれている。会話レベルまで練習するのは、入門期から自然な日本語を聞き慣れるためである。しかし、初級学習者には難しいところがあるため、焦点を当てたい単語に下線を引いてある。そこに学習者の注意を向けさせるためである。また初級レベルの学習者のために少し会話のスピードを落として録音してある。
- 3) 練習問題は2種類ある。一つは目的の単音があるかないかを聞き分ける問題で、もう一つは3つの単語を聞かせ、その中から一つ違うものを選ばせるものである。エジプト人日本語学習者に習得しやすいと考えられる単音については、簡単な紹介と練習で済ませた。課によって、目的の単音があるかないかを聞き分ける問題のあるものと、ないものがある。学習者に習得しやすいところは練習を減らした。ここで使われている語彙、文章、会話のレベルは、初級レベルの学習者に理解しやすいように、できるだけ簡単にしている。

最後に「アクセント」のセクションでは、単語にはアクセントがあることを述べ、共通語のアクセントの形を教える。それによって、学習者のアクセントに対する基礎的な知識と感覚をつくることを目標としている。すなわち、この学習の目標は共通語のアクセントの習得そのものではなく、その学習への道を開いておくことにある。

音声指導の効果

2005年度にカリキュラムが改善されて、学科では正式に音声コースが始まり、音声指導時間が多くなった。エジプト人学習者の日本語音声に関する問題点に配慮した教材を使用したことで、短期間で1年間の授業と同様の日本語音声の習得が成果できたと考えられる。

4. 日本人アラビア語学習者

母語の干渉によって生じる問題点：

- 1) 咽頭化音と非咽頭化音の弁別
- 2) 咽頭音の/ʕ/と/h/
- 3) /r/と/ʀ/の弁別

- 4) 軟口蓋摩擦音 /x/と/χ/
- 5) 声門閉鎖音
- 6) /ħw/と/fu/の弁別
- 7) 歯間音摩擦音
- 8) 歯間摩擦音と歯茎摩擦音の弁別
- 9) /ʕ/と声門閉鎖音の弁別
- 10) /ħ/と/h/の弁別
- 11) /ʃi/と/si/の弁別
- 12) 子音の後に母音がないとき（スクーン）の音節構造と関わる問題

日本人アラビア語学習者に対する効果的な教え方

（エジプト人日本語学習者と同じように）初級段階から、自分のアラビア語音声の問題点を意識化させ、アラビア語の音韻体系・音声的特徴、日本人学習者のアラビア語音声の弱点を説明し、読解の時間でも利用して練習する。さらに、学習者の母語の音の中でアラビア語の音に近いが、学習者が意識していない日本語の音を意識させるという方法を取っている。こうして教育現場で効果的だと検証された教授法と例文を集めたアラビア語教材を現在開発している。この教材は、日本人アラビア語学習者の問題点を考慮した初めての教材であるのみならず、アラビア語音声教育に特化した教材としては、世界初である。

5.終わりに

音声教育には、学習者の母語がどういった音声特徴を持っているかを把握することが重要である。その特徴を把握し、それを現場の指導に応用できる形で整理することは大きな意味がある。

主な参考文献

- Hanan, Rafik Mohamed (2004)『エジプト人のための日本語音声 日本語版とアラビア語版』ダールキバー出版社発行
- _____ (2005)「アラビア語の音声と日本語音声習得上の問題点」『新版日本語教育辞典』(大修館書店)
- _____ (2006)「エジプト人日本語学習者の東京語のアクセントとイントネーションに関する発音テストと分析」.『地域文化研究』No. 4. 89-100
- _____ (2008a)「エジプト人日本語学習者に対する音声教育－アラビア語カイロ方言の特徴と日本語母音の指導－」『日本語教育研究』、財法人言語文化研究所、第53号、46 - 64
- _____ (2008b)「エジプト人日本語学習者に対する音声教育－アラビア語カイロ方言の特徴と日本語破裂音/p/の指導－」『東京外国語大学論集』Vol. 76. 241 - 250

国際交流基金（1978）『はつおん』

中川千恵子(1998)『声を出して練習しよう』東京外国語大学日本語音声教育教材

長友和彦（1995）「第2言語としての日本語の習得研究」遠藤織枝編『概説日本語教育』160
-179.

戸田貴子（2001）「日本語音声習得研究の展望」『第二言語としての日本語の習得研究』第4
号、150-169.

_____（2006）日本語教育学とは何か—音声教育の視点から—早稲田大学日本語教育研
究科博士課程完成記念シンポジウム（早稲田大学）.